

報告事項 チ

鳥取県公立学校の教職員としての資質の向上に関する指標の一部改定について

鳥取県公立学校の教職員としての資質の向上に関する指標の一部改定について、別紙のとおり報告します。

令和6年3月16日

鳥取県教育委員会教育長 足 羽 英 樹

# 鳥取県公立学校の教職員としての資質の向上に関する指標の一部改定について

教育人材開発課  
令和6年3月16日

鳥取県公立学校の教職員としての資質の向上に関する指標を、以下の通り一部改定する。

## 1 改定の概要

学校教育を取り巻く環境が大きく変化し、本県の学校教育、教師の在り方が変化していることを反映するために令和5年12月に実施した「鳥取県公立学校教員として求める教師像」（以下「求める教師像」という。）の改定を踏まえ、所要の改定を実施する。

## 2 改定内容

### (1) 鳥取県公立学校の教職員としての資質の向上に関する指標【実習教諭、実習助手】の改定について

別紙1のとおり、一部改定を行う。主な改定内容は以下のとおり。

- ・改定後の「求める教師像」に鑑み、観点「素養」の内容、キーワードを変更する。
- ・公立の小学校等の校長及び教員としての資質の向上に関する指標の策定に関する指針（以下「指針」という。）の配慮項目に関する記載を削除する。

### (2) 鳥取県公立学校の教職員としての資質の向上に関する指標【寄宿舎教諭、寄宿舎指導員】の改定について

別紙2のとおり、一部改定を行う。主な改定内容は以下のとおり。

- ・改定後の「求める教師像」に鑑み、観点「素養」の内容、キーワードを変更する。
- ・指針の配慮項目に関する記載を削除する。

## 3 施行期日

令和6年4月1日

(参考) 「鳥取県公立学校教員として求める教師像」（令和5年12月改定）

- よりよい社会の実現に向け、自他の価値を尊重し、自らの人間性や創造性を高めていく教師
- 学校教育を取り巻く環境の変化を前向きに受け止め、学び続けることができる教師
- 児童生徒に対する理解を深め、自発的・主体的な成長や発達を支援することができる教師
- 教科等の専門的知識・技能を有し、児童生徒の主体的な学びを支援することができる教師
- 学校組織の一員として、学校内の多様な人材、家庭や地域、関係機関等と連携・協働を図ることができる教師

観点 キーワード	ステージ	実習助手			実習教諭	
		キャリア スタート期 (採用時)	育成期(第1ステージ) (1~5年目)	向上期(第2ステージ) (6~10年目)	充実期(第3ステージ) (11年目以降)	
			<p>実習助手としての必要な基礎的素養・指導技術を広く習得し、実践的指導力を身に付けるとともに、学校組織の一員としての自覚を高める。</p>	<p>第1ステージの経験をもとに、<b>実習指導</b>の専門的知識・技能を習得するとともに、得意分野の開発と実践的指導力の向上及び視野の拡大を図る。</p>	<p>第2ステージの経験をもとに、職務に関する専門性をよりいっそう高め、広い視点から学校運営に積極的に参画するとともに、指導的立場としての力量及び管理的立場としての力量(マネジメント能力)を高める。</p>	
					<p><b>充実期前期</b> (11~15年目)</p>	<p><b>充実期後期</b> (16年目以降)</p>
素 養	豊かな人間性、創造力、寛容性、人権意識	よりよい社会の実現に向け、自他の価値を尊重し、自らの人間性や創造性を高めることができる。				
	前向きな姿勢、向上心、適応力	学校教育を取り巻く環境の変化を前向きに受け止め、学び続けることができる。				
	教育的愛情、児童生徒理解、判断力	児童生徒に対する理解を深め、自発的・主体的な成長や発達を支援することができる。				
	専門的知識・技能、指導力、構想力	実習・実習に関する専門的知識・技能を有し、児童生徒の主体的な学びを支援することができる。				
	社会性、協調性、コミュニケーション力	学校組織の一員として、学校内の多様な人材、家庭や地域等と連携・協働を図ることができる。				
	使命感、責任感、倫理観	教育公務員としての倫理観及び法令遵守の精神に基づき、責任ある言動をとることができる。				
実 験 ・ 実 習	各学校の特色を生かしたカリキュラム・マネジメントの実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間指導計画</li> <li>単元構想</li> <li>学習指導案</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間指導計画に基づいて<b>実験・実習</b>の指導により生徒の技能を高めるとともに、児童生徒の実態を把握し、その実態に応じた指導に取り組んでいる。</li> <li>実験・実習に関する<b>施設、設備、器具等</b>の安全及び管理に関する技能と知識を習得している。</li> <li>情報教育機器の活用に関する知識を習得している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「学習指導要領」の趣旨・内容を理解し、<b>担当教科・領域の実習指導</b>、特別支援学校における各教科等における指導に関する年間指導計画の工夫・改善を提案するとともに、児童生徒の実態や学校、地域の特色を生かした指導方法の改善に取り組み、専門性の向上を図っている。</li> <li>実験・実習に関する<b>施設、設備、器具等の管理</b>の在り方の改善を図っている。</li> <li>児童生徒一人ひとりの特性や健康状況等に応じた<b>実験・実習</b>における安全管理の在り方について、改善を図っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「学習指導要領」の趣旨・内容を理解し、<b>担当教科・領域の実習指導</b>、特別支援学校における各教科等における指導に関する年間指導計画の工夫・改善を行うとともに、学校や地域の特色を生かした<b>実験・実習</b>の開発を行い、校内研究会等で改善案を提案している。</li> <li>実験・実習に関する<b>施設、設備、器具等の管理体制</b>及び<b>実験・実習</b>における安全管理に係る改善案を提案している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>校長の示す学校教育目標や学校として目指す方向性、及び教育活動の在り方を踏まえ、学校の特色化・魅力化づくりに積極的に関わっている。</li> <li>実験・実習に関する<b>施設、設備、器具等の管理</b>及び<b>実験・実習</b>における安全管理を組織的に行う体制づくりに努めている。</li> </ul>
	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習集団</li> <li>指導評価</li> <li>指導法工夫</li> <li>授業改善</li> <li>主体的、対話的で深い学び</li> <li>情報教育機器(ICT)の活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導において、教諭と連携して課題の発見・解決に向けた主体的・対話的で深い学びの実現に努めている。</li> <li>指導において、情報機器等を積極的に活用するなどの実践をしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報機器等を活用した教材を開発する等の、工夫ある授業を実践することで、専門性の向上を図っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教諭と連携して、課題の発見・解決に向けた主体的・対話的で深い学びを実現させるための授業を実践している。</li> <li>情報機器等を活用した教材を開発するなどの、工夫ある授業を実践することで、児童生徒の学びの質の向上を図っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教諭と連携して、課題の発見・解決に向けた主体的・対話的で深い学びを実現させるための授業を実践するとともに、教科横断的な視点を持って校内における授業改革の推進を行っている。</li> <li>情報機器等を活用した教材を開発するなどの、工夫ある授業を実践するとともに、他の教職員に情報機器等の効果的な活用方法を提案している。</li> </ul>
児 童 生 徒 理 解 ・ 指 導	教育相談、生徒指導、いじめ・不登校対策及び特別な配慮を必要とする児童生徒への指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>個への対応</li> <li>コミュニケーション能力</li> <li>特別支援教育の視点</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒一人ひとりの実態把握に基づく、個に応じた教育の重要性を認識している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒の特性や人間関係、家庭環境等を把握し、それらを考慮した指導を行っている。</li> <li>いじめ・不登校等の課題に対して、関係教職員への報告・連絡・相談を密にしている。</li> <li>児童生徒の「個別的教育支援計画」、「個別の指導計画」に基づき、一人ひとりの教育的ニーズに応じた適切な指導を行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒一人ひとりの特性や人間関係、家庭環境などを多面的に捉え、個に応じた適切な指導を行っている。</li> <li>生徒指導上の課題を把握し、解決に向けて組織的に対応している。</li> <li>いじめ・不登校等の課題について、解決に向けて組織的に対応している。</li> <li>組織的な校内支援体制に基づき、合理的配慮を行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校全体の児童生徒の実態を的確に把握し、個に応じた適切な指導を組織的に継続して行っている。</li> <li>学校全体の生徒指導上の課題について教職員間で共通理解を図るとともに、課題の解決に向けて、組織的に対応している。</li> <li>組織的な校内支援体制に基づき、合理的配慮を行っている。</li> </ul>
	キャリア教育(生き方・進路指導)	<ul style="list-style-type: none"> <li>生き方指導</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>キャリア教育(生き方・進路指導)の重要性を認識している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒の実態や学校(学科)の特色、地域の実情など様々な視点から現状を把握するとともに、児童生徒に、「何が出来るようにさせたいか」を具体的に定めている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>キャリア教育(生き方・進路指導)に必要な知識を習得し、児童生徒に将来の夢や希望を持たせる指導を行うとともに、地域や故郷への愛着を育む指導を行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校全体の児童生徒の実態を的確に把握し、キャリア教育(生き方・進路指導)の視点に立って、個に応じた適切な指導を行っている。</li> </ul>
学 校 運 営 ・ 教 職 員 連 携	学校安全への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>危機管理</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>専門分野の実験・実習に関して、想定しうる危険性とその対応策を把握している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>危機管理体制(危機管理マニュアル)を把握し、児童生徒が安心して学校生活を送ることができるための適切な対応や危機の未然防止に努めている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>危機管理体制(危機管理マニュアル)を把握し、学年や学校全体を広く見渡す視点に立った上で、過去の事例に学びながら、迅速な対応及び危機の未然防止に努めている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>危機管理体制(危機管理マニュアル等)を把握し、必要に応じて危機管理体制の点検や改善をしている。</li> </ul>
	家庭・地域とつながる力	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校、家庭、地域との連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域社会に貢献することについて、自分なりの考えを持ち、実行しようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭・地域と連携し、児童生徒を共に育てようとする関係を築いている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭・地域・関係機関等と連携し、組織的な対応をしながら児童生徒の指導を推進している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭・地域・関係機関等との連絡・調整に努め、必要な情報を収集・発信しながら、学校課題の解決に向けた校内体制を構築している。</li> </ul>
	組織として連携・協働する力(同僚、関係機関、異校種)	<ul style="list-style-type: none"> <li>目標</li> <li>業務改善</li> <li>事務</li> <li>外部</li> <li>チームマネジメント</li> <li>協働的教職員集団づくり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>集団で業務を遂行する際、自らの役割に応じて適切に行動し、力を発揮している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>管理職や同僚の指導・助言を受けながら、組織の中における自らの役割や責任を自覚するとともに、その一員としての業務を遂行している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>同僚と協働しながら適切に業務を遂行するとともに、関係機関・異校種との連携を適切に行っている。</li> <li>学年や教科等の組織から学校全体を広く見渡す視点に立って、自校の特色について把握し、その特色を生かした実践を行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>同僚と協働しながら適切に業務を遂行するとともに、関係機関・異校種との連携を適切に行っている。</li> <li>学年や教科等の組織から学校全体を広く見渡す視点に立って、自校の特色について把握し、その特色を生かした実践を行っている。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>各期(ステージ)において、学校教育目標の達成に向けて管理職及び同僚と協働しながら取り組むとともに、取組の継承や後継者育成を意識しながら業務を遂行している。</li> </ul>						

職		寄宿舎指導員			寄宿舎教諭							
観点 キーワード	ステージ	キャリア スタート期 (採用時)	育成期(第1ステージ)	向上期(第2ステージ) (6~10年目)	充実期(第3ステージ) (11年目以降)							
			寄宿舎指導員としての必要な基礎的素養・指導技術を広く習得し、実践的指導力を身に付けるとともに、学校組織の一員としての自覚を高める。	第1ステージの経験をもとに、舎生の指導についての専門的知識・技能を習得するとともに、得意分野の開発と実践的指導力の向上及び視野の拡大を図る。	第2ステージの経験をもとに、職務に関する専門性を発揮して舎生の指導に当たるとともに、広い視点から寄宿舎運営に積極的に参画する。							
					充実期前期	充実期後期						
素 養	豊かな人間性、創造力、寛容性、人権意識	よりよい社会の実現に向け、自他の価値を尊重し、自らの人間性や創造性を高めることができる。										
	前向きな姿勢、向上心、適応力	学校教育を取り巻く環境の変化を前向きに受け止め、学び続けることができる。										
	教育的愛情、児童生徒理解、判断力	児童生徒に対する理解を深め、自発的・主体的な成長や発達を支援することができる。										
	専門的知識・技能、指導力、構想力	舎生の指導に関する専門的知識・技能を有し、児童生徒の主体的な学びを支援することができる。										
	社会性、協調性、コミュニケーション力	学校組織の一員として、学校内の多様な人材、家庭や地域等と連携・協働を図ることができる。										
	使命感、責任感、倫理観	教育公務員としての倫理観及び法令遵守の精神に基づき、責任ある言動をとることができる。										
日 常 生 活 上 の 世 話	各学校の特色を生かしたカリキュラム・マネジメントの実施	・障がいや支援方法に関する技能と知識を習得している。	・「学習指導要領」の趣旨を踏まえ、舎生一人ひとりの健康・障がいの程度等を把握し、教職員や保護者と連携して児童生徒一人ひとりに応じた適切な支援をしている。	・「学習指導要領」の趣旨を踏まえ、舎生の実態や学校、地域の特色を生かした支援方法の改善に取り組み、教職員や保護者と連携して児童生徒一人ひとりに応じて支援の充実を図っている。	・「学習指導要領」の趣旨を生かし、現状分析をもとに教職員や保護者と連携して学校や地域の特色を生かした支援方法の開発を行い、改善案を提案している。	・校長の示す学校教育目標や学校として目指す方向性、及び教育活動の在り方を踏まえ、寄宿舎の特色化・魅力化づくりに積極的に関与している。						
	舎生の理解と寄宿舎運営	・舎生との関わり ・集団づくり	・寄宿舎運営計画のもとに、適切に業務を遂行している。	・寄宿舎運営において、舎生の個別理解を図るとともに、集団の状況を把握している。	・運営目標に対する寄宿舎の現状を的確に分析し、改善に向けた具体的な方策を提案している。	・寮務主任等と連携・協力して立案し、実行している。						
舎 生 の 理 解 と 生 活 ・ 生 徒 指 導	教育相談、キャリア教育、生徒指導及びいじめ・不登校対策	・個への対応 ・コミュニケーション能力 ・生き方指導	・児童生徒一人ひとりの実態把握に基づく、個に応じた教育の重要性を認識している。	・教育相談や生徒指導を適切に行う上で必要な理論や技法について理解するとともに、舎生の特性や人間関係、家庭環境等を把握し、それらを考慮した指導・支援を行っている。	・舎生一人ひとりの特性や人間関係、家庭環境などを多面的に捉え、個に応じた適切な指導・支援を行っている。	・同僚の生徒指導上の悩みを理解し、課題の解決に向けて指導・助言を行っている。	・いじめ・不登校等の課題について、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーと連携し、課題の解決に向けて組織的に対応している。	・舎生の実態や学校(学科)の特色、地域の実情など様々な視点から現状を把握するとともに、舎生の自立に向けた適切な生活指導を行っている。	・舎生の実態を的確に把握し、個に応じた適切な指導・支援を組織的に継続して行っている。	・舎生の生徒指導上の課題について教職員間で共通理解を図るとともに、課題の解決に向けて、関係機関と連携しながら組織的に対応している。	・キャリア教育の全体計画や年間指導計画の内容を理解し、系統だった指導を組織をまとめながら適切に実践している。	・個々の舎生の実態を的確に把握し、関係教職員との連携を積極的に図り、課題に対して対応案を提案することで、組織的な対応ができる体制づくりに努めている。
	特別な配慮を必要とする児童生徒への指導	・特別支援教育の視点	・舎生の実態把握に基づいた「個別的教育支援計画」、「個別の指導計画」に基づき、一人ひとりの教育的ニーズに応じた適切な指導・支援を行っている。	・関係機関と連携しながら、「個別的教育支援計画」、「個別の指導計画」に基づき、一人ひとりの教育的ニーズに応じた適切な指導・支援を行っている。	・組織的な校内支援体制を構築し、関係機関等と連携を図りながら合理的配慮を行っている。	・自立活動の内容に基づいた専門的な生活指導を行っている。	・教員と連携し、「個別の指導計画」の作成に携わり、それを活用して指導を行っている。					
学 校 運 営 ・ 教 職 員 連 携	学校安全への対応	・危機管理	・寄宿舎において、想定しうる危険性とその対応策を十分把握している。	・危機管理体制(危機管理マニュアル)を把握し、舎生が安心して学校生活を送ることができるための適切な対応や危機の未然防止に努めている。	・危機管理体制(危機管理マニュアル)を把握し、寄宿舎を広く見渡す視点に立った上で、過去の事例に学びながら、迅速な対応及び危機の未然防止に努めている。	・危機管理体制(危機管理マニュアル等)を把握し、必要に応じて危機管理体制の点検や改善をしている。	・学校全体の視点に立って、危機の未然防止策や危機発生時の具体的な対応策について、校長に進言したり、関係教職員に指示したりするなどの対応を行っている。					
	家庭・地域とつながる力	・学校、家庭、地域との連携	・地域社会に貢献することについて、自分なりの考えを持ち、実行しようとしている。	・家庭・地域と連携し、舎生を共に育んでいこうとする関係を築いている。	・家庭・地域・関係機関等と連携し、組織的な対応をしながら舎生の指導を推進している。	・家庭・地域・関係機関等との連絡・調整に努め、必要な情報を収集・発信しながら、学校課題の解決に向けた校内体制を構築している。	・家庭・地域等との連携、調整役として、保護者や地域等の協力を得ながら学校課題の解決に向けた取組を推進する役目として率先して行動している。					
	組織として連携・協働する力(同僚、関係機関、異職種)	・目標 ・業務改善 ・事務 ・外部 ・チームマネジメント ・協働的教職員集団づくり	・集団で業務を遂行する際、自らの役割に応じて適切に行動し、力を発揮している。	・管理職や同僚の指導・助言を受けながら、組織の中における自らの役割や責任を自覚するとともに、その一員としての業務を遂行している。	・同僚と協働しながら適切に業務を遂行するとともに、関係教職員との連携を適切に行っている。	・寄宿舎全体を広く見渡す視点に立って、自校の特色について把握し、その特色を生かした実践を行っている。	・寄宿舎の課題の解決に向けて、関係教職員との連携を計画的かつ積極的に行い、組織力を向上させている。	・様々な学校課題の解決に向けて、教職員間や関係機関等との連携・協働体制の構築に向けて、校長を補佐しながら「チーム学校」(効果的・効率的な組織)作りに努めている。				
			・各期(ステージ)において、学校教育目標の達成に向けて管理職及び同僚と協働しながら取り組むとともに、取組の継承や後継者育成を意識しながら業務を遂行している。									